

ナノハナ



■ナノハナのプロフィール

学名：*Brassica*

科名：アブラナ科

分類：一年草

原産地：日本、中国

在来種（*B campestris*）とセイヨウナノハナ（*B napus*）、その交雑種や改良種が回帰しています。育て方は同じです。通常種の花期は暖かくなる3月頃からですが、12月に咲き始める早生種もあります。

アブラナ科の花はどれも似通っていて、菜の花は、アブラナ(油菜)、ナタネナ（菜種

ハナナ（花菜）の名称（めいしょう）を略（りやく）して菜と呼び、その花を菜の花と呼んでいます。和え物にして食べる菜の花はアブラナのことです。古くから野菜としても食べられ、江戸時代以降は種子から「菜種油」が取れるために栽培されてきました。

現在市場に流通している野菜のナノハナは「セイヨウアブラナ」で、日本古来のアブラナとは違います。

■ナノハナの育て方

●タネまき

9月上旬～10月下旬の間に、よく耕した花壇またはプランターに直まき、もしくはポットにタネを3粒ずつ蒔きます。ポットに蒔く場合、土は種まき用土か、普通の園芸用培養土を用います。

発芽適温は15～20℃です。5～6日ほどで発芽するので、それまでは土を乾燥させないように注意します。発芽したら、しっかりした苗を1本残して、間引きします。本葉が7～8枚になったら、花壇やプランターに定植します。日当たりと水はけのよい、肥沃な土の場所を好みます。

通常種は低温にあわせないと花芽が出来ませんが、今回育てる早生種の場合は、その必要はありません。

●育て方のポイント

暖かい地域では9月上～中旬まきで11月～12月ごろに開花し、10月まきで2月ごろから開花します。

暖かい地域の9月まきでは日だまりで栽培すれば、真冬も咲き続けます。秋まきでは栽培期間と観賞期間が長いので定期的に追肥します。

観賞目的や切り花として利用する場合は、密植に直まきして、群生の素晴らしさを見せたり、わき芽の発生を抑えた切り花スタイルにつくります。食用に利用する場合は、株間を十分に広げ、わき芽を多く出させ、長い期間収穫できるように育てます。

アブラナ科の植物は、あたたかくなるとアブラムシ、アオムシ、ヨトウムシ、コナガなど害虫がつきやすいです。よく観察して、発生したら早めに取り除きましょう。

